

11月28日（南島原市学校・警察連絡協議会閉会あいさつ）

「つながり」

今週の月曜日の朝刊で大きく報じられたニュースが2つありました。一つはローマ教皇が38年ぶりに長崎を訪問されたというニュース。もう一つは大阪市で行方不明となった小学6年生の女の子が栃木県小山市で保護されたというニュースです。逮捕された男とその女の子はSNSを通じて知り合ったと報道されていました。親の知らないところで大阪の12歳の小学生と栃木県の35歳の男と簡単に「つながる」時代に子どもたちは生きているということです。恐らく、実際に知らない人が目の前に現れて声をかけられたり、車に乗らないかと言われても子どもたちは付いて行かないでしょうし、車には乗らないだろうと思います。しかし、顔は見えなくてもSNSを通じて「つながる」ことで、心理的にその人は「知らない人」ではなく「知り合い」と錯覚してしまう、また恐怖心のハードルが下がるのがSNSの怖さではないかと思いました。

話は変わりますが、「すぐその未来」という政府の広報動画をネットでご覧になったことがありますか。Society5.0とか超スマート社会と言われる近未来はこうなりますよ、というのを描いた動画です。主人公は地方の田舎に住む女子高生です。動画の冒頭はネットで注文していた靴が女子高生の部屋の窓の外までドローンで運ばれてくることから始まります。台所に行くと冷蔵庫がしゃべりだして、今冷蔵庫に何が入っているか教えてくれて、食材の在庫からおすすめレシピを冷蔵庫が提案してくれます。学校に行く前にAIスピーカーに「今日の天気は？」と話しかけると、今日の天気を教えてくれる。学校に行く途中、畑ではトラクターが畑を耕していますが、トラクターには人は乗っていない自動運転です。女子高生は事前にスマホで注文しておいたお昼を受け取るために、小さなお店に立ち寄ります。すでに注文していた昼食が袋に入れられて、スマホ決済「ピッ」で終わりです。次にバス停にバスを待っていると運転手がない自動運転のバスが来るという内容です。

一見とても便利な社会になるようにも見えますが、私が薄ら寒さとか、殺伐としたものを感じたのは、人が登場しないということです。スマート社会はとても効率的で便利な社会なのかもしれませんが、一方で私たち人間が最も喜びとか豊かさ、温かさを感じる人と人との「つながり」がなくなるような社会になっていくのではないのでしょうか。

希薄になっていく現実空間の「つながり」と、一方で強まっていく仮想空間の「つながり」を印象付けるような、象徴的な事件であり、動画です。

今、口加高校の3年生の一部が大学や専門学校の推薦入試を受けています。私もその面接練習をしています。質問の一つに必ず「あなたのふるさとの魅力は何ですか」と尋ねるようにしています。どの生徒も申し合わせたかのように答えは同じです。子どもたちにとってふるさとの魅力は「自然の美しさと人と人とのつながり」なんです。挨拶をしたらすぐに返ってくるし、「今日は暑かね」とか「元気しとるね」と話しかけてくれると言います。小さいころから近所や地域の人たちのことをよく知っているし、人々がとても温かいと言います。南島原市の子どもたちは、人と人とのつながりの中で大切に育てられて、人の温かさを実感している子どもたちです。隣は何をする人ぞ、という都会のマンション暮らしの子どもたちが実感したことのない強みを南島原市で生まれ育つ子どもたちは持っていると思います。

家族間の「つながり」はもちろんですが、学校内での児童や生徒同士の「つながり」、教員と子どもたちとの「つながり」、子どもたちを含めた地域の方々同士の「つながり」など、南島原市にはSNSを通じてではない人間同士の「つながり」があります。人と人との「つながり」の温かみを知っている子どもたちは、SNSを通じた「顔の見えないつながり」を求めていかないのではないかと私は信じています。

時代がどんなにデジタル化されていっても、人間の心はアナログであり、これは不変だと思っています。アナログな心と時代の変化のギャップに違和感や生きづらさを感じながら生きている人も多いように思います。

南島原市の財産でもある人と人との「つながり」を大切にしながら、これからも警察、教育委員会、学校、地域がつながりあって子どもたちの健全育成に努めてまいりましょう。皆さんで力を結集して、これからも南島原市を盛り上げてまいりましょう。

本日はお疲れ様でした。